

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2022. 11
No.351

「笑顔いっぱい会社にしたい」 イナテックグループを

私(社長)のせいかも知れませんが、もっと笑顔のあふれた会社で働いたら社員の皆さんがもっとハッピーで楽しく、前向きに自己成長して頂けるのではないかと、思います。

そこで、出会ったこの本は

『笑って長生き』 昇幹夫 著でした。

この昇幹夫氏は「日本笑い学会」の副会長で、現在は「元気で長生き研究所」所長として活躍されてみえます。

一九九一年に大阪の吉本興業の経営する「なんば花月」で実験されたことは、マスコミにも大きく取り上げられ、また日本心身医学会で最終論文に選ばれるほどの偉業です。

この本の中で、私が笑いのみではなく、人生のあり方・考え方で参考になったことを、皆様にお伝えいたします。

あなたは何で死ぬつもりですか
(還暦前に人生の店じまいを)

人生八〇年。長くなったといいますが、みなさんはまだまだ自分は、人生の上り坂だと思っていますか？どちらかというと、下り坂のほうで長くなったと思いませんか？だったら、五〇歳または還暦になったら、そろそろ人生の店じまいを考えた方がいいのです。社会的に飛びすぎた人はしばしば着陸に失敗して激突してしまいます。最初から低空飛行の方々は、案外軟着陸するんですね。生まれてきた以上、いつかは終わりが来る、そんなことは誰もが承知しています。日本語には不思議な言葉があります。「こんなに楽しかったらいつ死んでもいい(生きててよかったという言い方のほうがもっといい)」というんです。反対に「死にたくない」と言ってる時は、まだ十分やりたいことをやらなかったから悔しいという思いなんです。いつか終わりがくることは

わかっているはずなのに、それをやらなかったわけです。だから仕方ないですね。

人生はすべて自己選択・自己決定、そのうえで自己責任です。自分で選んで自分で決める、その結果が今なんです。チャンスは平等、でも結果は不平等です。終わりの日はそんなに早くないだろうと勝手に思っているだけです。

(中略)

何歳ぐらいで自分の人生にサヨナラしたいと思っていますか。亡くなった時に、「ちょっと早すぎましたね」という話をされるぐらいがちょうどいい死に時で、家族に「これでやっと肩の荷がおりましたね」と言われたら少し生きすぎかも知れません。だったら還暦前後になると、そろそろ人生の店じまいというのを考えたほうがいいと思います。

「非まじめ」な生き方を

「病気になったら病気を治すな。己を治せ」という言葉があります。「あなた、そんな生活をしていいのですか。もう一回考え直したら。」それを教えてくれるメッセージで

す。どんなものにも意味があります。病気やガンは、必ずしも人生の失敗、マイナスではなく、受け止め方の問題だと思いませんか。

(中略)

一生懸命やるという点では、成功も失敗も同じことです。成功の本当の反対は何か。何もしないことです。何もしなかったら失敗しません。でも成功もないでしょう。

(中略)

失敗はマイナスに考えなくてもいい。失敗して、こうしたらこうなるという体験を身につけたわけですから、むしろ財産というべきです。成功した人というのは、成功するまでに失敗を繰り返した人です。まじめだから白か黒か、本当かウソか、幸せか不幸か、どちらかで考えて悩んでいるのでしょうか。ガンになってよかつたという「非まじめ」な考え方もあるということを、「まじめ」なみなさんにお伝えしたいのです。

死なないこととはつらいこと

人間にとつて最大の刑罰は何か、それは死なないということです。人間、死ななかつたら

何をしでかすかわかりません。多くの科学者がどうしたら死なないですむかという研究を続けていますが、いまだに不可能です。

(中略)

八〇歳をすぎる頃から次々と親しい友人たちが亡くなり、そのたびに香典をとられ、弔辞を読む羽目になる日々が続きます。

(中略)

そのうち知り合いがみんな旅立ってしまった、昔話のできる相手は誰もいなくなりました。さびしくて、さびしくて、神様にもう一度お願いすることにしました。「そろそろ死にたいのだけど・・・」、すると神様が怒って言いました。「お前は六〇年前に自分で頼んだことを忘れたのか、長生きしたいと言っただろう。そんないいかげんなヤツは罰としてあと八〇年くらい生きとけ」と。

死は最大の教育、終わりがあるからいいのです。どんないい話も、今日はこまでといて終わりがあからいいのです。火花だつて消えるからいいでしょう。

人生とは楽しみながら修行する場

人生が終わった時に、神様の前で聞かれま

す、「どうでしたか、あなたの人生はいい人生でしたか」と。その時に「とてもいい人生でした

ありがとう」と言えますか。「どうして自分

だけが」と愚痴ばかり言つて、気がついたら終わりという人もいるのではありませんか。神

様はきつと言います。「あなたには十分な体力、能力、困った時にちょうどいい人に出会

えるように人生をセットしたよ。それに気がついてうまく利用しましたか」。八〇歳か

らでも大丈夫です。人生、やり直しはできな

いけれど、何度でも出直し、仕切り直しができます。

(中略)

「あなたは人生を楽しんできましたか？」

(中略)

人生とは、楽しみながら修行する場なのか
もしれませんね。

死の美学

「ものには潮時、天のとき」という言葉があります。

(中略)

誰だつてそのお迎えが今日、明日というごく近い将来に来るなんて思っていない、死なないうつもりで生きてるだけなんです。

(中略)

「櫻」という字ですが、咲く時期が決まっています。そして散り時を知っています。人生の幕を引く時期が誰にでも来ます。「進むは他が決め退くは自ら決する」という言葉がありますが、「まだいるの？」と言われながらもいつまでも居座っていたり、最後に法に触れるようなことに巻き込まれて晩節を汚すという例も新聞によく載っています。「引くのは惜しまれるうちが華」と言います。そろそろやめるといわれてやめるのではなく、自分で決断するのが「男の美学」、死語かもしれませんがこれを自分の中に持つことが大事だと思います。

(中略)

人生の終わりを迎える前に、老人ホームで過ごすことがあるかもしれませんので、先日そこでかわいがられる方法を寮母さんに教わりましたので伝えておきます。それはふたつだけで、まずひとつはいつもニコニコして素直なおじいちゃん、おばあちゃんであること。もうひとつは体重が軽いという、このふたつだけが

大事であとはなんの関係もないということでしたので覚えておいてくださいね。

(引用『笑って長生き』昇幹夫著)

私(稲垣良次)もこの十一月一日で満七〇歳を迎えることができました。これも家族を始め皆様のお陰と感謝申し上げます。

人生の幕を引く時期が来ているようでもあります。「そろそろやめろ」と言われる前に、自分で決断せねばと学びました。

そして神様から「あなたは人生を楽しんできましたか？」と尋ねられた時、「ハイ、十分楽しませていただきました」と言えるよう、残された人生を楽しみながら修行いたします。

皆様も「もつと人生を楽しんで下さい」。

そしてそんな場(イナテック)を提供したいと願つてやみません。

菜根譚後集

八二

今人専求無念、而念終不可無。只是前念不滯、後念不迎、但將現在的隨緣、打發得去、自然漸漸入無。

近ごろの人は、専心、無念無想になることを求めるが、(かえってそのために雑念を生じて)、結局、無念無想になれないでいる。ただ、前念をとどめてくよくよすることもなく、後念を迎えてびくびくすることもなく、ただ目の前に起こっている物事を、次々に片付けて行くことができれば、自然にだんだんと無念無想の境にはいつていくことができます。

